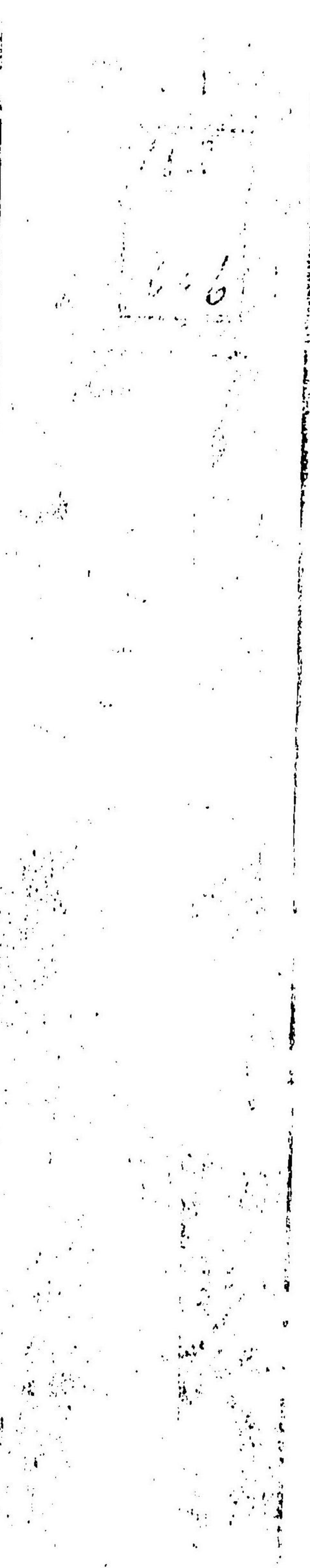




大新
全歌



序

何事も日清譚ならでい夜のあけぬけふ此でろ。流石

利に敏き芳文維主が機に投卜ての注文辭みぬ

嗚呼がましくも筆規に鴉の真似なから烏を鷲と筆に

まかせて走り書。元より好む道芝や筆の始めに澁か

るかむらねを書と禿筆の苦こかりける腰屏風。曲り

なりなる變調の歌くさぐさ。自作他作のきらいなく

柳櫻をこきりばは秋の夜のツイ長々と田を三めぐ

りの紙ふぎけ粹人のそとりもいとひなく。一寸御目



をかしてもらひ水。蒲團着て寐たる姿の東から西の
はてまで粹客雅伯がた。戦勝祝ひの御なぐさみに。
ドーカ御愛讀を。

味があるつもりでかいた此戯冊うりたすからには
飽までも買て貫はにやならぬぞへ

杯と勝手などを。甲午天長節前一日石街僑居に
於て。

著者 某 謹誌

目 録

- 勝利ふし……………一丁
- 實説支那墮落經……………四丁
- 日清流行葉唄……………十丁
- 日清都々……………十三丁
- 全文句入……………十四丁
- ちやんく坊主……………十五丁
- 日清甚句……………全丁
- 愉快ふし……………十六丁
- 戦争ふし……………全丁
- 日清口合……………十七丁
- 全演説……………十八丁
- トンヤレふし……………廿一丁
- 仙臺ふし……………廿二丁

○若狭ぶし……………全丁

○やっつけろぶし……………全丁

○いたこ……………廿三丁

○堪忍してくれぶし……………全丁

○ちやくくらかちやん節……………廿四丁

○ゑんかいなぶし……………全丁

○さいご節……………廿五丁

○さいちよくれ節……………全丁

○金來々ぶし……………廿六丁

○すいりよう節……………全丁

○ちふて節……………廿七丁

目録終

チヤンく 治新うた大全

香夢樓主人編

勝利節

血迷ふたるが李鴻章
 出掛くるかどと何事ぞ
 恢復せんどの思惑か
 日の丸國旗を懸へす
 敵對あすどと狂氣沙汰

八十に近き身を以て
 引率あして出軍と
 褫奪されたる總督を
 老耄親爺の彼奴どもが
 日本御國の猛夫あ
 言語に絶たる事どかし

チヤンく 坊主の意苦地ナサ

「帝國萬歳」勝利シヤナイカイナ勝利くく

「コリヤ〜〜チヤン〜〜聞けよかし」

汝の戴く李鴻章
智勇兼備の名士とか
世人と最も信せしが
面に被りし英雄の
日本魂の劔ふて
逆も回復出来兼ねる
此上生き恥掻よりも
冥府の政治に參與して

名聲四海に轟きて
東西屈指の豪傑と
噂ばかりの形法師
假面や装りと視面に
寸断微塵も切り裂かれ
一大耻辱を蒙れり
死して閻魔の廳に行き
亡者に總理と仰がれて

「夫れよて満足するがよい」

チヤン〜〜坊主の意苦地ナサ

「帝國萬歲」勝利シヤナイカイナ。勝利〜〜。

「コリヤ〜〜チヤン〜〜聞けよかし」

ウヌ等が頭の李鴻章
満壽節をも憚からず
マンマト遣り遂ぐ當事と
豊島の海戦敗北と
精神粉亂錯雑し
先の手並も懲りナイカ

自惚計りで思慮もなく
日清事件を惹き起し
前から外る、習めて
牙山の陸戦失敗よ
又々平壤の出兵は
思へば笑止の至りなり

「夫れより降参するがよい」

チヤン〜〜坊主の意苦地ナサ。

「帝國萬歲」勝利シヤナイカイナ。勝利〜〜。

「コリヤ〜〜チヤン〜〜聞けよかし」

汝の野心あるまゝ、朝鮮國まで手を伸ばし、十年以來朝鮮の當路の大官取り込んで、遂に正義の徒が出で、奸臣賊吏を打ち斃し、出過ぎた事にと清國が牙山よ兵をば屯させ、「出掛る杯とは太い奴」

ナヤン／＼坊主の意苦地ナサ。

「帝國萬歲」勝利シヤナイカイナ。勝利／＼。

實説支那墮落經

自國の不規律捨て置きて我がもの顔に指揮せんと政治お始終干渉し曖昧極まる事ばかり東學黨を組織し革命せんとい計りしに天津條約履行せず東學黨をば鎮靜と

笑樂坊

ヤンレー東西、お集まりの檀那方へ、笑樂坊主が申上ます、お經の文句と、今度此度、日清事件の、騒ぎの發端、どうした種にて誰れが蒔たど、尋ねて見るのに、(カツポン／＼／＼)國之朝鮮、時の執權、閔の一族矢鱈にはびこりそれに従ふ多くの役人、上を見習ひ下を虐げ、重斂苛税を無闇に取立て、質朴愚直の農工商等も、苦しまぎれが怒りと變じて、一時に破裂し刀槍鐵砲、或之鋤鎌、てん手に提さけ、全羅地方の要所を籠りて、其勢積つて二千三千、馬鹿にせられぬ一揆の勢ひ、困つたものだよ、(カツポン／＼／＼)そこで此奴等自ら稱して東學黨とは、當惑千萬、天に代つて姦官賊吏を、誅罰するとして地方の官署を、メナヤ／＼毀して、縣令を殺して郡吏を縛つて、牢屋へ押込め金銀衣食は分捕り功名、手當り次第お亂暴

したので此事忽ち政府に聞えて、聞た政府も周章狼狽、兵士を差向
 け鎮めて見たれど、勝に誇りし東學黨勢、中々手強く味方が敗走、
 始末におへねエ、(カツボンくく)流石の閔家も青菜に鹽にて、
 恐れ戦きブルくものあて、泣かんばかりの氣色を見てどり、支那
 の遺官袁世公使と、親切ごかしに忠告するやう、彈丸銃器と兵隊貸
 すから、夫れにて彼奴等を殄滅し給へ、素より朝鮮は中華の屬邦、
 傍觀坐視する所でないなど、胸に一物野心を藏めて、柔和に見せか
 け、ウマく欲めたり、ヤレく氣の毒、(カツボンくく)ウカに乗
 つたが閔の泳駿、地獄で佛に逢ふたる心地で、嬉れし涙を垂して喜
 び、再拜九拜助けを求めた、袁の七凱得たりかしこし、早速兵隊澤
 山送る、之を聞る東洋の雄邦、亞細亞の盟主が、信と義とには、
 一步も譲らぬ日本魂、何の猶豫も荒海乗ッ切る、數艘の軍艦兵士を

滿載、向ふ處は仁川港口、旭日旗章之朝日も耀き、立派なとたよ、
 カツボンくく)規律の正しき盛んの軍勢、威風凛々たりを拂
 ふて、勇み進んで京城に入込む、一足後れた支那の弱兵、居所にま
 ごつさ、仕方がないので牙山へ陣取り、近傍民家を荒して廻るは、
 東學黨より餘ッばと惡黨、我儘氣儘の遣りたい放題、朝鮮の爲よは
 不爲にこそあれ、爲おとならない厄介兵隊、それゆゑ閔氏も今更當
 感、それお引ッ替へ日本の勇兵、弱さを扶けて暴さを挫くは、世界
 獨歩の義侠の本領、茲に至つて永年勝中よ、迷ッて居たりし朝鮮有
 志も、始めて奮發國王殿下に、いろく建白早速御裁可、大院君を
 ば御苦勞ながらも、萬事の總裁、姦臣賊吏を殘らず免黜、閔氏之遠
 島、ヤレくいゝ氣味、(カツボンくく)續いて弊政改革始まり、日
 本仕組の政府の制度が、着々緒に就く、然るに頑冥固陋のチヤン

く、焼餅起して朝鮮領土は、己等の屬國、日本の干涉不都合なん
 ぞと、此方ふ對して敵意を現とし、ドシ／＼兵隊、牙山を送りて軍
 の支度を豊島沖にて、見認めた軍艦さうはさせじと轟然一發、高陞
 沈没、江分捕、廣乙自燒お濟遠遁走、一千餘りのチャン／＼坊主が、
 ブク／＼沈んで残った奴原、葬々生捕り日本へ送還、是れにはいッ
 かち豚尾の老爺も、始めて目が醒め閉口するかと、思つて居るのに
 性懲りもなく牙山の陸兵、成歡驛にて防戦するとは、去りとは大馬
 鹿、(カツボン／＼／＼)
 大島旅團が鋭い砲撃、争でか敵せん、散々敗北、五百ふ餘れる死
 人の天窓と、時節柄として蔓の付たる、南瓜や西瓜が、あちらにコロ
 く、こちらにコロく、山も野原も一夜の内よて、瓜の畑と變じ
 たをかしさ、此くと聞いてゐる支那の政府は、驚ろき桃の木、山椒の

木の芽か、夜の目もあてない、下らぬ人足金にて買出し、兵士お仕
 立て、鐵砲かつがせ、義州道より平壤に推し寄せ、四方の天兵、
 屬國危急を救ひの爲めなど、大きな法螺きて、愚民を欺ひき、金銀
 兵糧勝手よ取揚げ、相もかはらぬ乱暴狼藉横着ものだよ、(カツボン
 ／＼／＼)日本の軍隊手筈を定めて、四方を取巻き烈しき攻撃
 山河に轟き天地を動かし、暫しの間お忽ち落城、豚の親分四五疋生
 擒り、小豚の死傷は數も限りも、知れない程だよ、夫れよ又もや第
 二の海戦、四艘は沈んで三艘と焼れた、勝お乗トて益々追撃、渤海
 蹂躪、天津粉蠶、日ならず北京の城下に攻め寄せ、否應云はせず兜
 をぬがせて、百万兩の罰金出させて、東洋の英雄亞細亞の豪傑、世
 界第一李鴻章など、世間知らずお威張た老爺の、生肝引きぬき、(此
 處義太夫入り)(李鴻章とてお情けは仇お返しはせぬものをだましよ

攻め来る日本兵迷化の力もあるあらば、可愛とタツタ一言のど年々日本に貢を出させて、四百餘州の大きな身軀の、汚れた垢をば曹達で落して、石鹼で研いて清水で洗つて日本の屬國清唐うれしい、歐米諸國の羨やむやうなる、美男に仕わけて、獨逸が英露でも、指でもさしたら、さ、はしねエド、威張返して凱歌を唱ふる、日本万歳、日本の光と世界に輝やき、日本の威風と四海を靡かす、誠に目でい今度の出来事、是から後には歐米諸國も、日本と聞たら南無阿彌陀佛、支那と朝鮮我領邦連外境くくくカッポンくくくく

◎日清流行葉唄 (替唄)

一人寝

一人寝の淋しさ牙へる耳の底。かすかに叩く閨の戸は。若しや號外かどだまされる。氣でまた開けて照らされて。知らぬ月まで恨み事。

夕暮

夕暮に詠め見渡す旅順口。渤海黃海うみつゞき。旭日の旗が見ゆるぞへ。アレ船が来るアノ船は強ひ日本の軍艦トやいな。

浅くとも

辛くとも清き別は國の爲め。ほんあものうき月日さへ。やがての凱陣たのしみよ。神をねんじて待わいな。

同

かしこくも強きはまれの日本國。ゆくてあまたの清兵を。除いてきたれますらをよ。支那が欲しうとないかいな。

我もの

我ものとおもへばうれし支那の土地。國の御旗を先にたて。攻め取り行けば日の本の。太刀風寒く豚尾なく。逃ぐるに早き敵のやつ。

ほんにいくとがないわいな。

松づくし

傳へとやせや清國。一番目よと牙山の負け。二番豊島の沖の負け三番目にと平壤で。四番目よと海洋島。五番鴨綠九連で。六ッ無暗お恐がつて狼狽て逃ぐる弱い兵。七番目にと鳳皇城。八番目よは旅順口。九ッ心も有頂天。十と北京も落城し。分捕生擒數知れず。降参閉口大敗軍。四百餘州滅茶めちや。

辻君

明暮にどうか黄河と李鴻章。心苦よいとゞ瘦る身の。暫しまどろじ目先にも。旭日の旗ありくと。見へしは夢か氣の迷ひ。覺てとかなき闇の中。

越後の國

清の國の兵隊さん。國を出る時や大いばり。戰場へ出で見りや。直ぐ逃げまする。アマリ馬鹿けて腹がたつ。

●日清都々逸

- 狭い露營も苦勞にやあらぬ勝て身巾の廣い今日
- 辛い別れも御國のためと泣くく見送る後かけ
- 宇品出る船さてたのもしや思ふお方を載て行く
- 兵の數さへ嘘夕月の影法師までかぞへこじ
- 泣たい所も忠義の二字で無理を笑顔の可憐しさ
- 女ながらも軍人の女房未練よ首途をとめはせぬ
- いつそ寫眞と見ないが優よ見れば見る程思出す
- 兵隊のがれよ重罪犯しや鉄砲取らずよ砂利車
- 支那の敗將(箸)をば二ツ折つて其れを日本(貳本)にする哩な

○深い智畧の我海軍をまけて淺瀬へ乗りあびる

○水もくらすぬ日韓が交情を何のいらざる井戸會議

○讀も我身についつまされて思はず沾した新聞紙

◎同文句入

○堅い固めといこれし平壤も

「扶桑第一梅、今宵爲君開」

日本の勇氣に落つる今日

○思ひ込んだる俠兒の意氣地

「從は是二千三百里、北辰直下建三銅標」

積雪に屍骸は埋むとも

○寫真手にもち柱にもたれ

三勝「今ごろは半七さんどこにとうしてござんすやら」

思ひあまつて獨り言

◎ちやんく坊主 (權兵衛節)

○向ふの軍艦眺めて見れば十七八隻無暗に撃れる何よかわ耐るか四

隻と沈没三隻は燒棄てズンベラく坊主

○支那人固める牙山と取られる平壤も敗られ日本に一度も勝つ事出

來ないズンベラく坊主

◎日清甚句

○今度此度平壤攻撃に就てチー。忠勇無双の我兵と。一步も引かず

退かず。さしも堅固の敵壘を。一日一夜も攻落し。二万餘人の清兵

を。ものゝ見事に打倒し。尙も勇氣をとげまして。日よく進む進

軍は。向ふ敵なし障碍なく。鴨綠江をも打乱り。又も九連攻取て。

今に北京の城頭で。日本勝利の凱聲を。揚て益々威を示す。活潑愉快

快の凱陣と。是れぞ日本のエーエー大名譽

◎愉快ぶと

○日清談判破裂して。悲風慘愴雲漠々。宇品乗出す陸海軍。思へば昔し其昔。西郷死んだも渠奴が爲め。江藤殺すも渠奴が爲め。遺恨重なるチャンく坊主。日本男子の村田銃。筒の尖頭へと劍つけてなんなく支那人打倒し。萬里の長城乗越ぬて。一里半往きや北京城の愉快く。

○廣島よい所ぢや。大本營が出来て。ぬいぢやないか。數多の文武官が來つちよつて居つちよる。

愉快く。霹靂一聲夢さめて。ウンららコンららつくばつくのばく

◎戦争ぶと

○こゝみ寐るのも今晚かぎり明日は萬里の土手枕。

○軍するときはや横槍入れな。臺場とる時ア喊の聲。

○おもひ出すだす。月みるたびに。いつか屍をてらはやと。

○北京衝かうか。天津突こか。朝の茶の子ふ旅順口。

◎口合ひ

○平壤の落ちて支那の弱兵と泣き叫んで居る時三登から來た朔寧の我兵あとと居たでシヨカおウかた（立見マロウ）

○支那の艦隊とウカくと彼んな處へ乗出さすば宜かつたと言つて居るでシヨ子（黃海先きよ立たすサ）

○是れでも支那の都を取るのは随分骨が折れましよ子（何に枯木同様で北京くゞ）

○今回我出征軍ふ第二軍司令官まで出來たぞ聞たら負惜の強ひ李鴻

章も無ど驚ひて居るでしよ子（何に例の横着老爺だから日本の奴等と大山をやるせと噂して居るだろウ）

○僕等の素人考へでと旅順口の對岸一帯地を奪取して此處から兵を揚げ北進したら宜かろうと思ひます（左様サ其の方が（イカイエイ）

◎演説

諸君ヨ、今回の日清事件に付ては一体全体どうなる事と思はれま
すか平壤の陸戦には我兵の大勝利を得たる欣報が我々の耳朶に達し
其鼓膜の震動が未だ收まらぬに又も海洋島の海戦に我艦隊敵の艦
艘四隻を撃ち沈め其れのみならず他の敵艦は自燒して消て無くなり
ました電報が大雷の如く我々の耳底に響き渡りし音と共に又々瞬時
の間に九連城を陥落した報我々の耳を打てと我々の耳も溜たもので
ない耳の垢が虚空に散乱して時ならぬ雪を降らす様な騒ぎ何と諸

君愉快極まる恐悦至極の至りでと御座りませんか（大ヒヤ〜）
是皆我 天皇陛下の御威稜と陸海軍諸將の忠烈勇武とに依つて我々
國民が立ッても座ても居られぬ程狂喜雀躍の有様に至らしめたもの
と考へます（ヒヤ〜）諸君能く思ふて見玉へ昔し日本で強い大將
と言へば義経、辨慶又と信玄、謙信加藤清正創めとし福島正則と何
れも是に上へ越すものはないと我々は小供の時から感得て居たので
す處が今度の支那征伐の我陸海軍兵の働きと義経創め永祿慶長の征
韓役に鬼上官と呼ばれた加藤清正ですら今回の戦振りを聞たなれば
感心して居るだろウと思ひます（ヒヤ〜）殊お後から聞た海軍大
激戦の凄トは人間業では出来まいと云ふ話で鬼神の仕事にも此れ程
の働きは出来まいと云ふ噂です彼の昔し源平の戦お討死した教経知
盛などが海底で今度の戦況を聞さらさぞ残念がると同時よ此んな事

なら千餘年以前に航海術や海戦術でも稽古して置くのであつたに鳴呼過た真似をしたと愚痴をこぼして居るお相違ありません諸君如何でしよか(大喝采)何よこともあれ彼様などは後日よ致して目下諸君と共に我帝國の大勝利よ非常の愉快を感つて躍り上つて萬歳を唱へて喜居るに引替へ悲しみと恐怖とで今頃腰を折して青く成つて居る支那方の奴等の風采と如何でしよか泣面をして震ひ上つて居る様を眼に見るようです是に亦大馬鹿者の隊長李鴻章の懷述を幽報で寄來ました人が有りましたから其李鴻章の事を一言陳トす抑も支那國で李鴻章の申し居りますおはアー我れも何の因果か尊大國よ生れし悲しは生來他國を見ると夷狄の如く如何なる文明國をも西戎南蠻などと賤視し我中華に比すれば大海よ浮ぶ蚤蚊同様お思ひ早合點をしたが失策の原となり今更黃海しても十日の剩左れど日本もそう

揚威おは軍兵を操江號とは思はなかつたに朝飯前に牙山く搔き込まれ其無念さは超勇とでない威海と是れも皆我れに經遠が(經)がなかつた、からだ廣乙と此く成る行くからには此戦争を來遠(來年)の事お日本へ鎮遠(運延)を乞はんかイヤく日本はそんな馬鹿な事は靖遠を何おしても仕方がない今の内に都も北京と折よくるであらう其れよ平遠(コウ)する方が滿州(マシ)か知らんて致遠一殘念だなど諸君此の如き附會の寐言を吐露して居るのです何と慙れな有様ではありませんか(大笑)

諸君猶演説の趣向も有るのですか五臟六腑が欣躍の二字にて塞かり息の出る穴もない始末ですから是にて帝國萬歳を諸君と共に唱へて演壇を下ります(大喝采ヒヤく)帝國萬歳大萬々く歳

◎日清とんやれ節

皆さんく軍隊の前にペコくお辭義は何ぢやいな。アレと降参の豚尾漢が助命を願ふを知らあいか。トコトンヤレトンヤレナ。

◎仙臺節

國が大きどてけんとい振な。國が大きて兵多て。うれで軍さが勝てるなら。清國豚尾漢平壤で。ドウして日本兵にコレナンザイ勝てなんだ。

◎若狭ふと

清軍の陣屋を覗て見ればアホーラシーチヤオマヘンカ。ニツ枕に三ッ蒲團。コッサ官妓の褻衣。トコヤツトコズイトく

◎やツつけろ節

○豚めが降参せぬ中。その中や遠慮と要らあいな。北京丸焼さ。ツラ。やツつけろ。

○日本の正義を邪摩する奴は。獨逸コイツの英魯なく。嚴重談判。ツラやツつけろ。

◎いたこ

○お前は支那の李鴻さん。心配に。やつれてお顔が眞青ケ。こちらや關やせん。かまやせぬ。

○築けば築け砲臺場。築くどて攻道具のないでとあるまらし。こちらや關やせん。かまやせぬ。

◎堪忍とてくれ節

○一軍二軍と出される日には。いよく益々防げあいな。堪忍してくれ瘦るワイ。

○盗んだ軍用を言はれちや困る。懐中が空なら妾をけぬ。堪忍して呉れ瘦るワイ。

◎日清キヤ〜ラガキヤン節

○支那の袁世凱は餘ッほと卑怯もの大鳥公使敵とんチウテコソ
〜逃げ歸る

○日本の義勇と餘ッぽと厚いもの朝鮮政府を助けんチウテ義兵を繰
出す

○チヤン〜坊主と餘ッぽと脆い奴平壤が守れんチウテ敵〜
〜

◎ゑんかいな節

○號外待てと便りなく。待身ふつらき遺瀨な。来るは蕎麥屋の鈴
ばかり。ドーゼ今宵と來んかいな。

○神功皇后豊太閤。むかし討たる朝鮮の。今度日本に従ふも。素よ
ものがれぬ縁かいな。

○今度の海戦は。渤海で。出船入船。軍艦。放つ大砲水雷艦。又も
日本の勝かいな。

○今度の陸戦は。奉天で。満人相手の大戦さ。放つ日本の村田銃。
打貫く大砲のドンかいな。

◎さいで節

○戀の痴話文ナアー日本兵に取られ。耻を他國に曝します。ツイト
コキア。イカイデモカモコマチー。サイゴドン〜サイゴドン〜
サ、サイゴドン〜。

◎さいちよくれ節

○聞いちよくれ。聞きます仰しやれ何ですか。離別がつらいと豚妾
に引かれ。断るに。さらぬ。どこなんだい。でれすげさん。さな
はつたかし。おやそうですか。エーうしろ髪。

○聞いちよくれ。聞きます仰しやれ何ですか。夢に三田尻くびをば長く。號外待つはど。とこなんだい。でれすけさん。きなとつたかし。おやそうですか。エーじらされる。

●金來々ぶし

○止せばよいのに虚威張。正義に逆ふ豚尾坊。きびす。かんく。打ち出す大砲。軍艦沈んで水の泡。チャンくぶくく。西瓜を浮べた。大べら棒の行止り。

○李鴻章が。忍び泣すりや袁世凱も共み。貰ひ泣する阿房鳥。きびす。かんく。ひがひ。どんす。きんぎよくれんすのすくれんば。すッちやんまんく。かんまんかいの。をッペらばウの。きんらいく。阿房らしいじやをまへんか。

●するりやう節

○何をエー。推量く。小瀝なチャンく坊主。ちよいとどのよやさのさ。日本。こりやしよい。魂を。ドつ。知らぬいか。よいやまアの。よいやま。ちよと。ありやま。こりやま。やーとせ。せのゑ。ちりやすいらやうく。

●チフテ節

○日本の兵士はよつばど強いの。寒さも厭はんチフテ。満州に進軍す。○支那の兵士とよつばど弱いの。鴨綠江も守れんチフテ。九連を遁げ落る。

明治廿七年十一月六日印刷
明治廿七年十一月二十日發行

版權所有

編輯兼發行者

和田忠次郎

大阪東區兩替町二百四十六番屋敷

印刷者

齋藤安之助

大阪東區後備町一丁目三十一番屋敷

發兌元

中川芳文館

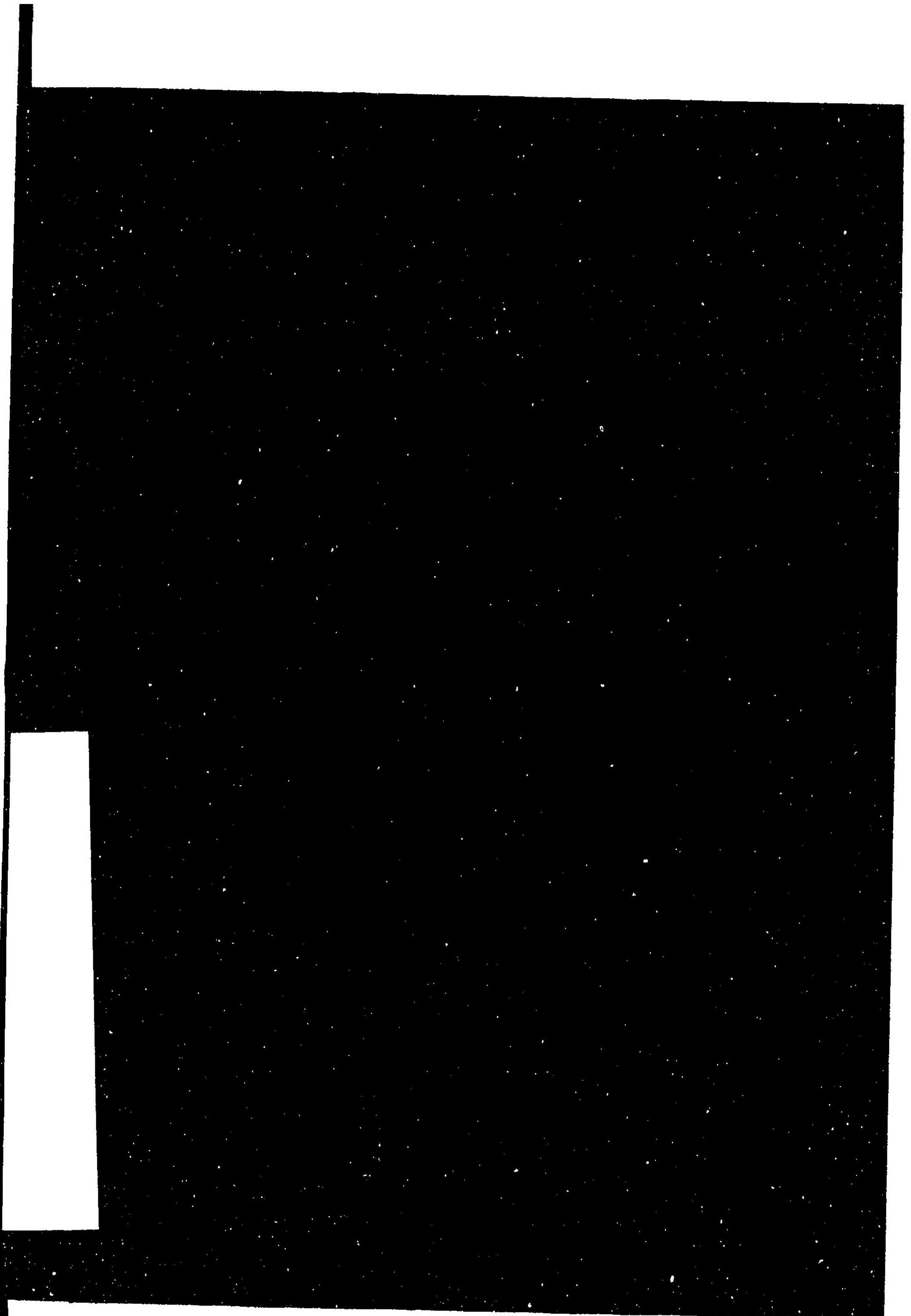
大阪東區本松町屋

定價金六錢

大賣捌所

和田開文堂

大阪東區兩換町骨屋



特63

348

千代千代
退治 新うた大全

国立国会図書館

074378-000-9

特63-348

チャンチャン退治新うた大全

香夢楼主人／編

M27

CEI-1630

